

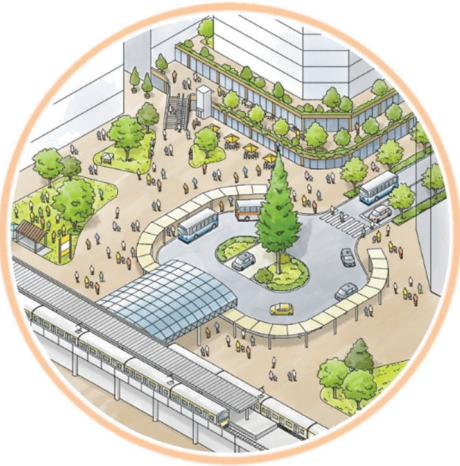
第 1 章

目指す都市像

1 将来都市像と都市づくりの目標

将来都市像

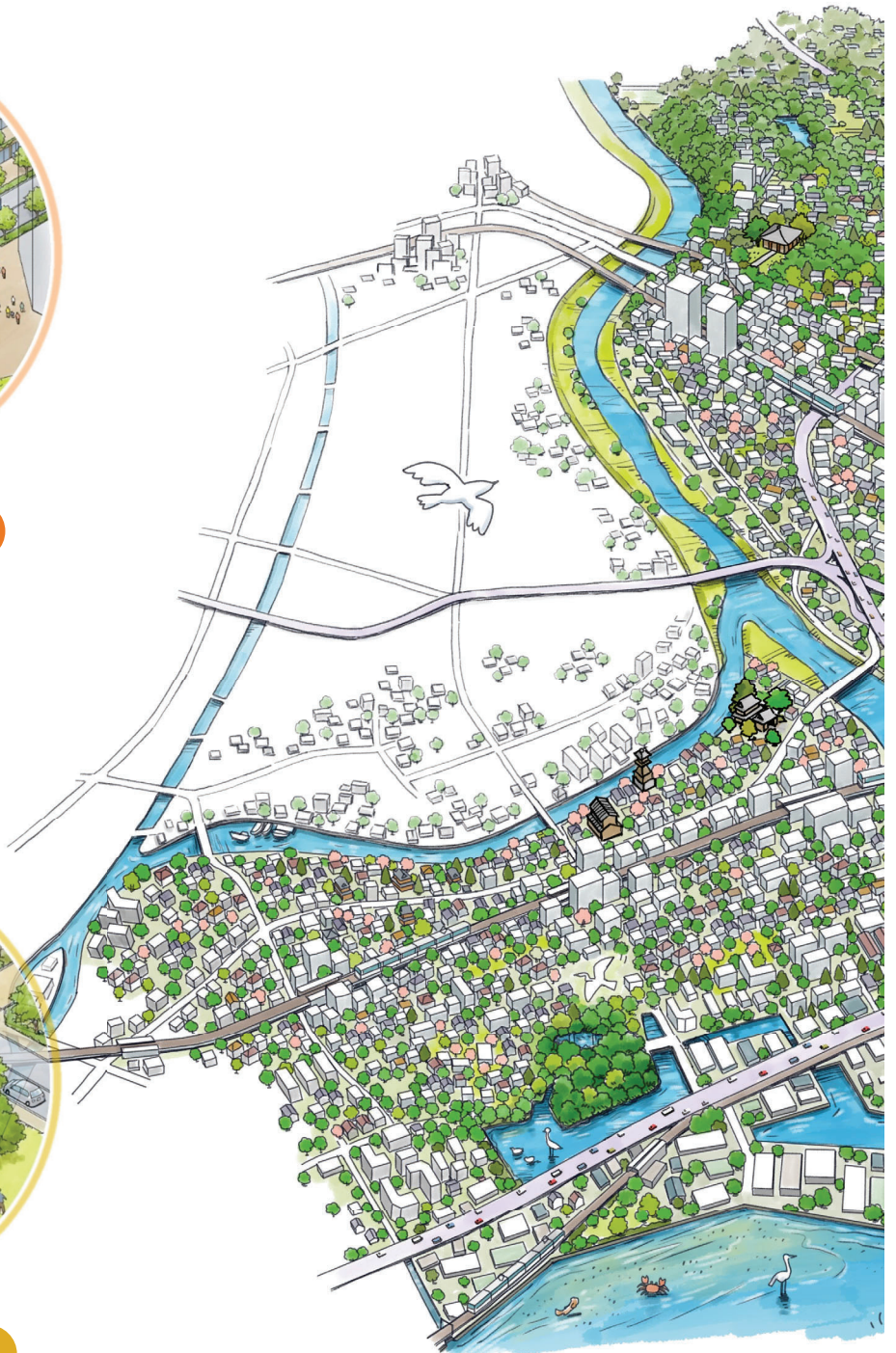
いのちを尊び 知性と希望を育み 環境と共生して
和が つながるまち いちかわ
～ 住み続けたいまちを次世代へ ～



都市拠点のイメージ



良好な住宅地のイメージ



都市づくりの目標

- 目標1 都市と自然が共存し、便利で快適に暮らせる都市
- 目標2 誰もが安全で快適に移動・交流できる活気あふれる都市
- 目標3 水・緑・文化が織りなす魅力あふれる安らぎの都市
- 目標4 災害に強く、安心して住み続けられる強靱な都市
- 目標5 都市と自然がともに発展する持続可能な都市



緑の拠点のイメージ



水辺の拠点のイメージ

2 将来都市構造

将来都市構造図は、まちの骨格となる要素を示し、目指す都市の構造を概念的に描いたものです。

駅周辺を「都市拠点」や「地域拠点・生活拠点」、主要な公園や調節池周辺等を「緑の拠点」や「水辺の拠点」などとし、機能の充実を図るとともに、それらを鉄道や道路で結び、ネットワークを強化することで、住みやすいまちづくりを進めます。



[将来都市構造図の構成]

拠点

本市における都市活動や産業、自然環境の中心的な役割を担い、バランスのとれた土地利用の核となる場所を拠点とします。

都市拠点

- ・商業・業務・行政・文化等の様々な機能が集積し、人・もの・情報が行き交う都市の発展を支える中核となる場所です。
- ・多くの人々が利用する交通結節点となる主要な駅及びその周辺に配置します。

地域拠点・生活拠点

- ・地域拠点は、主に地域住民の日常生活に必要な機能が集積し、地域における生活を支える場所です。
- ・生活拠点は、地域住民の生活に密着したサービス機能を有し、移動等の利便性を支える場所です。
- ・地域住民が利用する鉄道駅周辺に配置します。

工業・流通拠点

- ・活力ある工業・流通業務機能が集積する、都市の産業を支える場所です。
- ・既にこれらの機能が集積し、今後、広域交通機能などの優位性を生かした更なる発展が見込まれる場所に配置します。

緑の拠点

- ・広がりのある緑の空間で、市民の憩い・自然との触れ合い、環境学習やレクリエーション、さらに防災機能を担い、市民生活の安らぎと安全性を支える場所です。
- ・大規模公園や緑地などを中心にその周辺を含めて配置します。

水辺の拠点

- ・治水機能の確保や多自然型の良好な水辺環境整備が行われ、市民が憩い、水と親しむ、環境学習の場としての機能を担い、市民生活の潤いと安全性を支える場所です。
- ・調節池を中心にその周辺を含めて配置します。

海辺の拠点

- ・かつての豊かな海が感じられ、その環境に触れ、親しみ、交流や環境学習、また、レクリエーション機能を持つ場所です。
- ・三番瀬とともに市川塩浜駅周辺に配置します。

都市軸

都市全体や地域の連携を強化するとともに各拠点を結び、また、水と緑の機能、防災やコミュニティ機能、交通機能を担うとともに周辺の土地利用を誘導し、都市の発展を支える連続した空間を軸・ネットワークとします。

都市軸

- ・市全体の発展を支え、市域的な防災、水と緑の環境、交通、交流などの様々な機能を担う空間です。
- ・市域を南北または東西に結ぶ骨格道路を中心に配置します。

広域連携軸

- ・都市間交流や産業の更なる発展・活性化に係る機能を担うとともに、地域における生活や活動を支える空間です。
- ・市内外の都市を結ぶ幹線道路を中心に配置します。

地域連携軸

- ・都市軸などを補完するとともに地域を結び、地域の防災やコミュニティの機能を担い、地域における生活や活動を支える空間です。
- ・市内の各拠点を結ぶ幹線道路を中心に配置します。

水と緑のネットワーク

- ・幹線道路沿いの街路樹や広がりのある江戸川や旧江戸川、市街地内の河川は、防災機能とともに、都市生活における潤いと安らぎを担う空間です。
- ・主要な道路及び河川とその周辺を含めて配置します。

— 序章 —
— 第1章 —
— 第2章 —
— 土地利用
市街地整備 —
— 道路・交通 —
— 水と緑
景観 —
— 防災 —
— 環境 —
— 第3章 —
— 北東部 —
— 北西部 —
— 中部 —
— 南部 —
— 第4章 —
— 資料編 —